

デンマーク・ロラン島 “失業率40%” から、“最も持続可能な自治体” へと再生。

デンマーク南部、バルト海に浮かぶロラン島は、面積1243km²、人口6万5千人ほど。現在、「自然エネルギーで収益を生む風車の島」として世界的に知られている島です。島内で使用する電力の5倍を風車から生み出しています。その50%強は農家の発電事業となっていて、農業収入を上回り始めているということです。さらに、余剰電力からは水素を取り出して家庭用の燃料電池に充填する「水素タウン」や「藻の活用」研究など、多面的な取り組みが際立っています。1979年からの7年間で造船所が次々と閉鎖に追い込まれ、それにとまって鉄鋼や食品産業も衰退。失業率は40%にも達し、エンジニアや管理職等のインテリ層は島に見切りをつけて離れていきました。しかし1998年、新しいビジョンを持った市議会議員が就任したことで、ロラン島は目覚めました。新しいビジョンとは、「エネルギーと環境の分野において最も持続可能な自治体を目指そう」というもの。この勇気ある政治的リーダーシップと、積極的に行動しようとする市民がいたことで、いまでは、自分たちの使う電力の5倍のエネルギーを風力で生み出すことができるようになったのです。現在、こうしたエネルギー分野で年間300億円、農業分野では500億円の売上を誇ります。彼らは風力発電機を農地に設置して、食糧だけでなくエネルギーも収穫しているのです。

ロラン島は、地域全体が大規模な研究所となっています。現在、エネルギーや環境の技術革新をはじめ35ほどのプロジェクトが並行して進んでいます。たとえば、「R水素」プロジェクト。Rは「Renewable(再生可能)」の頭文字です。風力などの自然エネルギーによって水を電気分解して取り出した水素をパイプラインで各家庭に送り、そこに設置されている水素ユニットを通して熱や電気を取り出すというものです。現在、35軒の家庭で実証実験が進められていますが、近く1万軒に広げることになりました。この実験は将来のスマートグリッド(次世代送電網)の構築に役立つと期待されています。また、北西部のオンセヴィ気候パークでは、75haの農地を守るため、新たな堤防をつくることになりました。そこでは、堤防の内側に貯めた水を使って藻の培養実験をしています。藻をバイオマスととらえ、そこからエネルギーを生み出すことができれば収入を得られ、そのお金で堤防建設にかかる費用をまかなおうという試みです。

この島で環境エネルギー政策の牽引役となってきたのは、市会議員のレオ・クリステンセン氏。今回のスタディ・ツアー中に開催するシンポジウムにもキーマンとして参加してくださいませ。離島と呼ばれる地域で「持続可能」という切り口を成長戦略に据えたらどうなったのか、そのスタンスから具体的な行動まで、じっくりとお話をうかがいます。



デンマーク最大のオーガニック農場、「クヌセンルン農場」

元砂糖工場の建物を利用した気候センター

2014年6月16日
シンポジウム
デンマーク × 日本
未来のエネルギーを語り合う！

オンセビー風車パーク近辺にある地産地消レストラン

レオ・クリステンセン氏とニールセン北村朋子さん

レオ・クリステンセン … デンマーク・ロラン市議。過疎化・失業率が悪化していたロラン島を、環境問題への取り組みをきっかけに立ち直らせ、国内のみならず世界をリードする環境自治体にまで成長させたキーパーソン。

《通訳・コーディネーター》ニールセン北村朋子 … デンマーク・ロラン島在住。ライター、ジャーナリスト、コーディネーター。再生可能エネルギーの利用・環境問題・食などを切り口にした、地球と人にやさしいライフスタイルの追求がテーマ。